



小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	総合的な学習の時間「私たちが未来を創る！！ ～地域から世界へ～」
学年	小学校第6学年
目標	地域について調べたり、古くから地域に住む人にインタビューしたりした結果、収集した情報をプログラミング体験も交えて整理・分析した内容を発信する体験を通して、地域の魅力に改めて気付いたり、地域について考えたことを仲間と交流したりすることで、地域に対して愛着や誇りをもつことができるようにする。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	PrograChat (LINE ボットをビジュアル言語で作成できるアプリ)
環境	児童2人で1台のタブレット端末を使用
都道府県	京都府
実施校	京都市立紫野小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>自分の興味・関心に応じて、地域の「人」、地域の「もの(寺社・仏閣等)」、地域の「こと(伝統行事等)」の3つのグループに分かれ、地域の魅力を多くの人に伝えるための方法・手段について話し合った。学校HPをはじめ、インターネットを活用することを思い浮かべる児童が多かったため、実際に、学校HP等を活用して情報発信を試みた。ある一定の満足感を得られたものの、利用者の反応が見られないことを理由に、ニーズに十分に答えられたのか、不安を感じる児童が複数見られた。そうした児童の様子を全体に伝え、より利用者のニーズに応えられる情報発信の方法・手段として、PrograChat (LINE ボットをビジュアル言語で作成できるアプリ)を児童に「LINE」社の人を通じて、紹介した。「LINE」は、児童にとって身近であったことも受け、意欲的にプログラミングの活動を進める姿が見られた。活動する際、大切にすることは、次の2つである。1点目は、プログラミング操作をする前に、ホワイトボードと付箋紙を用いて、フローチャート図を作成したことである。こうすることで、発信したい情報の全体像が見えるだけでなく、試行錯誤を繰り返すための考える足場にもできた。2点目は、一緒に作成するペアのメンバーはもとより、プログラミング操作について学級全体で交流する機会を大切にしたことである。こうすることで、試行錯誤しながら協働して問題解決することにつながられた。</p>  
成果と課題	本校は、光栄にも2年連続して本プロジェクトに参加させていただく機会を得られた。その結果、大まかな単元の流れは変えないものの、異なるパターンでの単元構想の下、実践を重ねられたことは成果である。一方、2年連続して、本市のICT支援員のサポートを多分に受ける必要があり、改めてPrograChat (LINE ボットをビジュアル言語で作成できるアプリ)を使用する上で、難しさを感じるものが課題である。